

伊万里川水系河川整備基本方針

平成16年3月

佐 賀 県

伊万里川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	
(1) 流域及び河川の概要.....	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針.....	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項...	6
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項.....	6
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する 事項.....	7
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に 関する事項.....	7
< 参考図 >	
伊万里川水系流域概要図.....	8

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

伊万里川は、その源を黒髪山系の青螺山、牧ノ山に発し、杏子川、古賀川、白野川、脇田川、新田川等の支川を合わせ、伊万里湾に注ぐ二級河川である。その流域は、佐賀県伊万里市の中央部に位置し、流域面積約 41km²、本川流路延長約 10.1kmである。

流域の気候は、温暖多雨であり、年平均気温は 15～16℃、年平均降雨量は約 2,200mmである。梅雨期、台風期の降雨量が多く、特に前線性の降雨による災害が多く発生している。また、流域人口は約 25,000 人であり、その多くは下流部の伊万里市街地に集中している。

流域の地形は、上流部は青螺・黒髪山系の急峻な地形を呈しており、中流部は比較的緩やかな丘陵と河川沿いの細長い平地からなる。下流部は溺れ谷である伊万里湾の湾奥を伊万里川、有田川が埋め立てて生じた低地である。地質は主として新生代古第三紀漸新世の杵島層群中～上部層であり、行合野砂岩層、駒鳴砂岩層、畑津砂岩層が分布する。

流域の環境は、上流部は青螺山や牧ノ山などの山々に囲まれた渓谷河川であり、深い山々と切り立った屏風岩の奇岩景観を呈している。また、良好な河畔林を形成しているシイ・カシ萌芽林及びスギ・ヒノキの植林があり、河岸にはチガヤ、ススキ群落、また、水辺にはツルヨシ、ホウキギク、イヌビエ群落などが見られる。岩盤がむき出しになり、流れが速くなる瀬にはカワムツB型やタカハヤ等が生息している。

中流部は比較的緩やかな山間に田園が開けており、植生は上流部とほとんど変わらないが、岩が露出し砂礫の多い河床の水辺にはヤナギタデやミゾソバ群落が見られ、セキレイなど鳥類の生息空間となっている。淵や多くの堰の湛水域には緩やかな流れを好むオイカワやムギツクなどが多く、これらを餌とするカワセミやコサギなども生息している。

下流部市街地の伊万里川は両岸コンクリート護岸となっているが、岸辺や高水敷にツルヨシ、チガヤ、ヨモギなどが見られ、河口付近の感潮区間には

塩生植物のハママツナや貴重種のウラギクもわずかに生育し、内湾性のボラ、セスジボラ、シロウオ等が見られる。また、河口近くの支川新田川下流の湛水区間では緩やかな流れを好むカネヒラやオイカワなどが生息している。河岸はヨシが繁茂し、左岸の田面と相まってカイツブリやサギ類など鳥たちの貴重な生息空間となっている。

伊万里川の注ぐ伊万里湾は良質の干潟を有し、マガモ、オナガガモ等数多くの渡り鳥の飛来地となっている。また、流域内には貴重種のチュウサギ、ハイタカをはじめ、数多くの鳥類の生息が確認されている。さらに、河口伊万里湾はカブトガニの生息地として知られており、地域の保護意識が高く清掃や産卵地整備を行っている。

伊万里川の水質は、公共用水域水質測定により、相生橋^{あいおいばし}、道祖瀬橋^{さやのせばし}の2カ所で定期的に測定されており、それぞれB類型(BOD3mg/ℓ)、A類型(BOD2mg/ℓ)に類型指定されている。近年の水質をBOD75%値でみると、上流部、下流部とも環境基準を満足している。なお、現在計画されている公共下水道事業完了後は、さらに水質が改善されるものと予想される。

伊万里川では過去に何度となく洪水氾濫による浸水被害に見舞われている。特に昭和42年7月の集中豪雨では、伊万里川及び伊万里川支川の氾濫により伊万里市街地および市内での死者が34名、重軽傷者510名と多数に上り、倒壊流失家屋172戸、床上浸水6,296戸など甚大な被害をもたらした。これを受けて、昭和43年度より河川改修事業に着手して、伊万里川下流相生橋から岩栗^{いわくり}橋^{ばし}間の約1.5km間の河道拡幅を基本とした護岸、築堤、掘削等を実施し昭和59年に完成した。また、上流区間や支川の杏子川等は昭和42年7月洪水のち災害復旧助成事業等にて整備が完了している。

しかし、伊万里川支川では近年のゲリラ的豪雨や伊万里市中心市街地として沿川の土地利用が進んでいることにより、昭和51年8月、昭和57年7月、平成2年7月洪水や平成13年7月豪雨により被害が発生している。また、河口に近い低平地の支川では内水被害が頻発している。

伊万里川水系では、古くから河川水を堰から取水するほか、流域内に多数造

られているため池を利用して効率的な水利用により水田のかんがいを行っている。また、伊万里市の工業用水は既存工場への供給能力はほぼ限度に達しており、今後既存企業の工場の増設や伊万里工業団地への企業の進出等、需要の増大が予測され、新たな水源として都川内ダムに供給源確保が進められている。

伊万里川においては、市街地の相生橋から六仙寺橋まで歩行者専用道路の「あいあい通り」が整備され、相生橋や延命橋^{えんめいばし}等の高欄を飾る伊万里焼の置物と河川の風景が住民や伊万里市を訪れる観光客の目を楽しませる「伊万里焼の里」をアピールする散策路として親しまれている。

また、市街地部の相生橋から白野川合流点間は高水敷を利用した市街地における貴重な水辺空間を住民に提供し、周辺の小中学生のクラブ活動に利用される他、イカダ大会、どっちゃん祭りの出舟、入船、日本三大ケンカ祭りの伊万里トンテントン川落としの舞台などのイベント空間として広く親しまれている。その他の区域においても、魚釣りや川あそび、学校教育の場として住民の日常生活に利用されており、伊万里市民にとって身近で親しみのある「ふるさとの川」として愛されている。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川整備の現状、水害発生の状況、水資源の利用の現況及び開発流域の文化並びに河川環境の保全に配慮し、かつ、関連地域の社会経済情勢の発展に係る佐賀県総合計画、伊万里市総合計画や下流域の港湾管理者との調整を図りながら、既存の水利施設等の維持を十分に考えた、水源から河口まで一貫した計画のもとに目標を明確にして、段階的な整備を進め、河川の総合的な保全と利用を図る。

1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項

沿川流域を、洪水から防御するため、計画規模の洪水を安全に流下させるため、計画的に河川整備を行い被害の軽減をはかるとともに、内水被害にも対処する。さらに、計画規模を超過する洪水に対しても、被害を最小限に抑えるよう水防体制の維持・強化を図るとともに、警戒避難体制及び情報連絡体制のソフト対策整備を関係機関や地域住民と連携して推進する。

なお、支川区間についても本川や上下流バランスを考慮し水系一貫の河川整備を行う。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、流域内及び周辺地域における現況の水利用や新たな水需要の増大に対処するため、水資源の開発と広域的かつ合理的な水利用の促進を図り、流水の正常な機能を維持するため必要な流量を確保するように努める。

河川環境の整備と保全に関しては、自然環境や河川利用の実態の把握に努め、治水・利水面との調和をはかり、潤いのある河川空間の整備をはかるとともに、河道に設けられた堰については魚道を設置することにより堰上下流の連続性を確保するなど、河川の有する自然環境の多様性、連続性を確保し動植物の生息・生育環境を考慮した良好な河川空間を創出する。

伊万里川の典型的な風景となっている中上流部の露出した岩河床、セキレイ、フナ類の良好な生息場となっている砂礫の州やその水際に繁茂するツルヨシ群落などの保全と復元をはかっていく。また、河口部の干潟については、動植物の貴重な生息場となっていることから、人工的な改変を極力さけるようその保全をはかっていく。

特に、支川新田川の潮溜まりの整備にあたっては、カイツブリやガンカモ類の野鳥の良好な生息場となっていることから河岸に生息するヨシ・マコモなどの抽水植物の保全・創出をはかる。併せて野鳥の観察などの学習空間となるよう関係機関と連携して整備を行っていく。

また、小中学生のクラブ活動を行う場や日本三大ケンカ祭り「伊万里トンテントン」の^{あらかし}荒神輿の^{だし}団車の川落しなど昔から親しまれているイベントを行う場として、住民や観光客に広く快適に利用される河川空間を整備し管理を行っていく。

河川の維持管理については、災害の発生防止、河川の適正な利用及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する機能を十分に発揮させるよう適切に行うものとする。さらに、健全な水循環系の構築や良好な水質・水量の確保・保全を図るために、関係機関をはじめ、流域全体で一体となって取り組んでいく。なお、水際植生の伐採や堆積土砂の浚渫については、現地の河川環境を把握し作業区分を決めるなど計画的に実施して、魚類や鳥類の生

育・生息環境に配慮するものとする。

また、地域の河川に係わる取り組みを促進・支援するとともに、河川に関する情報を流域住民に幅広く提供すること等により河川愛護の啓発を行うとともに、河川と流域住民との関わりを強め住民参加による維持管理を推進する。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、県内バランスや大きな被害を与えた昭和47年7月洪水等を考慮して概ね50年に一度発生する規模の洪水とし、そのピーク流量は基準地点岩栗橋において $530\text{m}^3/\text{s}$ と設定する。

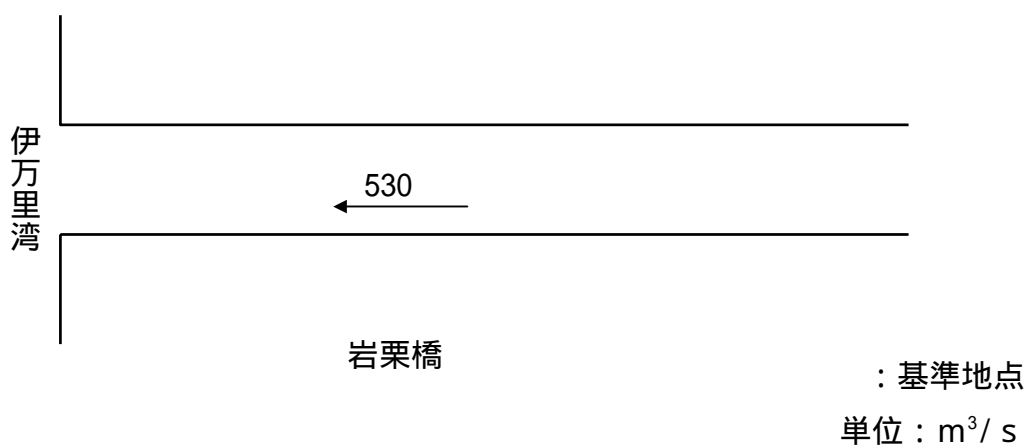
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位： m^3/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設等による調節流量	河道への配分流量
伊万里川	岩栗橋	530		530

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

伊万里川における計画高水流量は、基準地点岩栗橋において $530\text{m}^3/\text{s}$ とする。



伊万里川計画高水流量図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (k m)	計画高水位 (T.P. m)	川幅 (m)	摘 要
伊万里川	岩栗橋	1.36	+ 2.92	51	基準地点

(注) T.P: 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

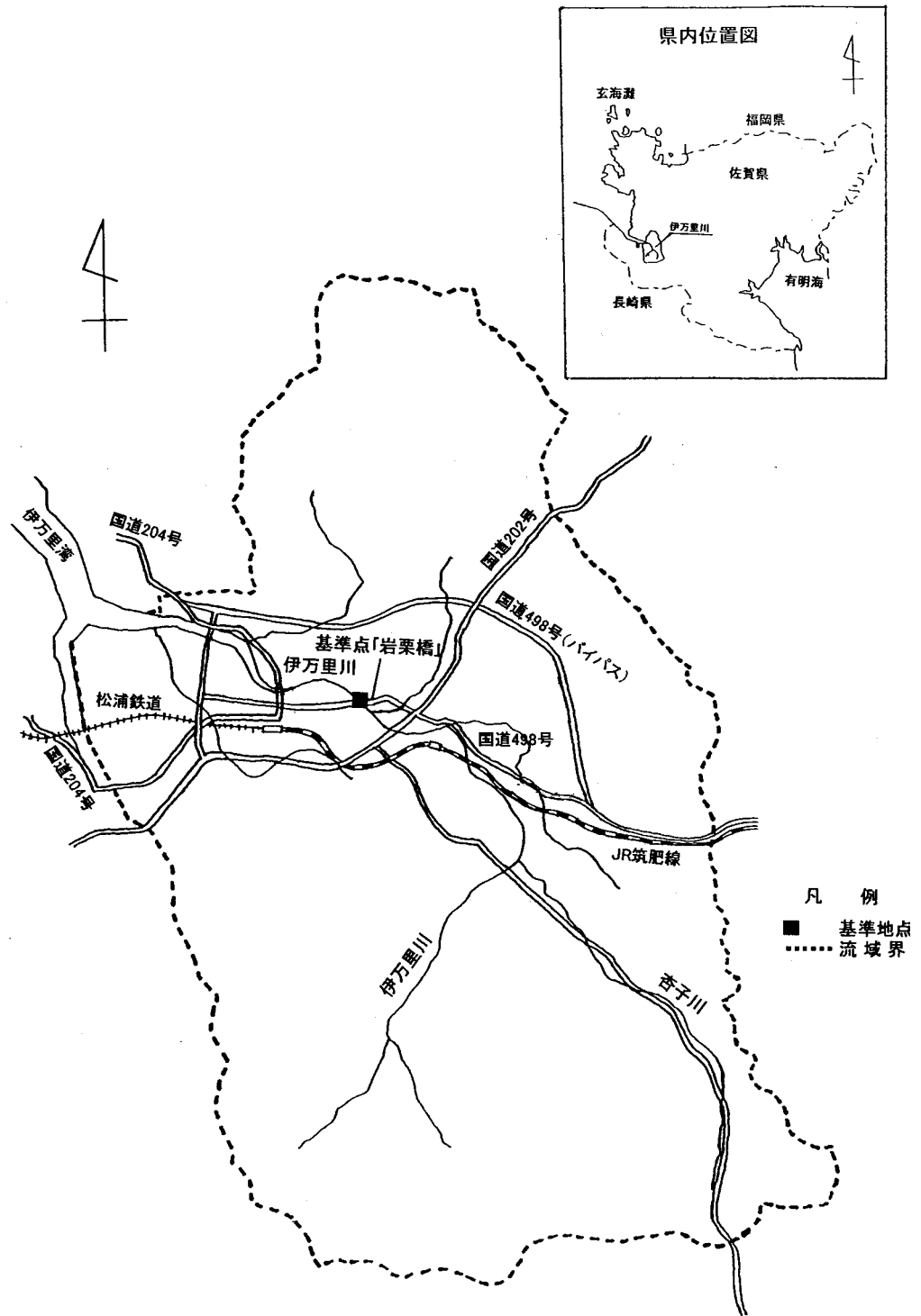
伊万里川水系の既得水利としては、六仙寺堰上流でかんがい面積約 130ha の慣行水利のほか、工業用水として伊万里川六仙寺地点において $0.127\text{m}^3/\text{s}$ の許可水利がある。

これに対して、六仙寺地点における過去 43 年間（昭和 32 年～平成 11 年）の平均湯水流量は $0.114\text{m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量は $0.247\text{m}^3/\text{s}$ である。

六仙寺地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、利水の現況、動植物の保護等の観点から通年 $0.112\text{m}^3/\text{s}$ とする。

なお、六仙寺地点の水利使用の変更に伴い、当該水量は増減するものである。

また、今後とも流況及び取水実態等の現況の把握を行うとともに関係機関等との連携のもと、適正な水利用がなされるよう努める。



参考図 伊万里川水系流域概要図(s=1:50,000)

